

科目名	国際政治論特講	担当者	ショウジ 庄司 タカユキ 貴由	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ウェストファリア体制の成立から冷戦後の世界に至るまでの国際政治を、歴史はもちろん、理論も含めて体系的に学習していく。法律、政治、経済、歴史など諸科学の領域横断的な学問として確立された国際政治学は、当初、国家間のパワー・ゲームとして捉えられてきた。やがて、国家のみならず、国際機関、企業、NGO、テロリストなど脱国家的主体が影響力を持ち始めるようになると、国際政治の捉え方にも徐々に変化が訪れるようになる。</p> <p>本講義では、根拠に乏しい印象論ではなく、歴史や理論に裏打ちされた深い議論を受講生が構築・展開していくための基礎を提供していきたい。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 世界の現状を理解し、説明する力：世界的潮流を踏まえたうえで、体系的な説明ができる。 論理的・批判的思考力：歴史や理論を用いながら、論理的、批判的な思考ができる。 問題発見・解決力：既存の研究や現実から問題を導き出し、独自の考察を展開できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 (1) 国際政治学の歴史や理論を体系的に理解したうえで、(2) 現代国際政治を規定する歴史的、構造的背景を把握し、それらに基づく独自の考察を展開できるようになる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 レポートの作成1本につき、基本教材、参考文献の読解に少なくとも25時間を要する。加えて、Manaba-Folioでのやりとり(修正作業等)に20時間以上が必要となる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-Folioを通じて、教員と院生の間で双方向型の指導を行うこととする。</p> <p>【学修方略 (LS)】 指定教材、その他参考文献の読解。 Manaba-Folioを通じたやりとり。 レポートの作成。</p>		
スケジュール	<p>(1) 最終稿の提出期限は、学事暦で定められている提出期限に準じる。 (2) 前期レポートは7月末までに、後期レポートは11月中旬までに初稿を提出する。その過程では、適宜、質疑応答を行うこととする。 (3) いずれも修正を施し、誤字脱字など確認した後に、提出期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	<p>先行研究との関係が明確化しているか。 論旨が一貫しているか。 独自性、先見性が導き出されているか。 注、参考文献など基本的な体裁が整えられているか。</p>
	平常評価	40%	<p>manabaでのやりとりを含む取り組み方。 初稿、最終稿の提出期限が守られているか。 コメントに対する修正。</p>
履修者への要望	<p>先人たちの知的恩恵に浴しつつも、5W1Hで研究対象を捉え、自分なりの「視点」や「問い」を見つけて下さい。国際政治という比較的新しい専門領域を通じて、ささやかながらそのお手伝いをさせて頂ければと思っています。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 村田晃嗣，君塚直隆，栗栖薫子，秋山信将 教材名： 『国際政治学をつかむ（新版）』（有斐閣，2015年） ISBN 978-4-641-17722-2 2,200円+税
	本書は、「歴史」、「理論」、「アクター」、「イシュー」の全四章（27 Unit）で構成された国際政治学の教科書である。基礎を幅広く網羅し，確かな専門性と平易な文章で貫かれた内容は，アメリカ，ヨーロッパの国際政治学を導入する類書とは本質的に異なる。複数の見方を日本人向けに「ブレンド」し，論を進めたところに最大の特徴がある。
参考図書	田中明彦，中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識 [新版]』（有斐閣，2010年） ISBN 978-4-641-18387-2 2,400円+税 この書籍は，通読するというよりは，辞書として用いる。
履修上のポイント	(1) 国際政治の歴史的流れを理解する。 (2) 代表的な理論の相違を理解する。 (3) 国際政治の制度や構造を理解する。 (4) 近年の国際政治が直面している課題を理解する。
レポート課題 1	リアリズム，リベラリズムなど，基本教材 1 で書かれている国際政治の理論に基づいて，特定の事例を分析しなさい（3,000 字程度）。  <b>留意点：</b> 理論枠組み，事例の選択はいずれも各自の自由とする。
レポート課題 2	国際政治は絶えず新たな課題に直面しているが，それらは歴史的にどのような対応が施されてきたのだろうか。Unit 16 以降からテーマを選び，歴史的視点で論じなさい（3,000 字程度）。  <b>留意点：</b> 事例の選択は各自の自由とする。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 高坂正堯『国際政治—恐怖と希望』（中央公論新社，1966年） 教材名： ISBN:978-4-12-100108-5 660円+税
	日本における国際政治学の古典的名著である。出版年からやや古い印象を受けるが，それでも平和，軍備，経済交流，国際機構など現在に通じる論点を随所に提示している。いかにして現実の国際政治にアプローチをし，分析，考察を展開していくのか，本書は，この問いに一つの答えを与えてくれる好個の書籍に他ならない。
参考図書	中西寛『国際政治とは何か—地球社会における人間と秩序』（中央公論新社，2003年） ISBN978-4-12-101686-7 860円+税
履修上のポイント	(1) 勢力均衡原則をはじめ，戦争と平和の関係を理解する。 (2) 経済交流，国際機構の機能と課題を理解する。 (3) 内政と外交の連関を理解する。 (4) 大まかな国際政治の流れを理解する。
レポート課題 1	高坂の『国際政治』は全5章構成であるが，そのうち1章を選び，簡潔にまとめなさい。そのうえで，どのような特徴があるのか論じなさい（3,000 字程度）。  <b>留意点：</b> 関連文献を紐解くと，比較的書き易くなる。
レポート課題 2	現代の国際政治を眺めたとき，高坂が展開した議論の先見性や限界性はどこにあるのだろうか。具体的な事例を提示しながら論じなさい（3,000 字程度）。  <b>留意点：</b> 高坂が『国際政治』を執筆した時代がどのような時代かを意識する。